【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成17年5月19日(2005.5.19)

【公開番号】特開2004-290840(P2004-290840A)
【公開日】平成16年10月21日(2004.10.21)
【年通号数】公開・登録公報2004-041
【出願番号】特願2003-87313(P2003-87313)
【国際特許分類第７版】
　Ｂ０９Ｂ　3/00
　Ｆ２３Ｇ　5/033
　Ｆ２３Ｇ　5/04
　Ｆ２３Ｇ　5/16
　Ｆ２３Ｇ　5/46
　Ｆ２３Ｇ　7/12
【ＦＩ】
　Ｂ０９Ｂ　3/00　３０３Ｊ
　Ｆ２３Ｇ　5/033　Ａ
　Ｆ２３Ｇ　5/04　Ｅ
　Ｆ２３Ｇ　5/16　Ｅ
　Ｆ２３Ｇ　5/46　Ｂ
　Ｆ２３Ｇ　7/12　Ａ
　Ｂ０９Ｂ　3/00　ＺＡＢＺ
　Ｂ０９Ｂ　3/00　３０３Ｃ
　Ｂ０９Ｂ　3/00　３０３Ｅ
　Ｂ０９Ｂ　3/00　３０３Ｆ
　Ｂ０９Ｂ　3/00　３０３Ｚ
　Ｂ０９Ｂ　3/00　３０３Ｍ

【手続補正書】
【提出日】平成16年7月6日(2004.7.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　可燃廃棄物を燃焼する装置と、風力で該可燃廃棄物を送圧する送風機を備えた加熱乾燥筒と、この加熱乾燥筒は外壁を貫通して該外壁に囲まれた炉本体の一次燃焼室の内側と連通し、これにより加熱された可燃廃棄物は該炉本体の一次燃焼室の内側に送圧され、この一次燃焼室の下部は火格子を介してニ次燃焼室に連通し、これにより加熱された可燃廃棄物はニ次燃焼室に落下してさらに燃焼され、燃焼によって発生する煙、排気ガス、等が該ニ次燃焼室の下部から排出されるよう構成され、これら排出された煙、排気ガス、等は前記外壁の内側面と前記炉本体の外側面との間隙で形成された空間を上方に流通することによって加熱空間を構成し、この加熱空間に水槽を設けて温水を生成し、前記外壁の上部に屋根と排気口を設けて構成し、この排気口の下部に集塵装置を装着したことを特徴とする可燃廃棄物処理装置。
【請求項２】
　可燃廃棄物を加熱して外壁に囲まれた炉本体の内側に送風機で送圧し、これにより発生

した煙、排気ガス、等は炉本体の下部から排出させ、これら排出された高温の煙、排気ガス、等は前記外壁の内側面と前記炉本体の外側面との間隙で形成された空間を上方に流通することによって加熱空間を構成し、この加熱空間に水槽を設けて温水を生成し、前記外壁の上部に屋根と排気口を設けて構成し、この排気口の下部に装着された集塵装置により前記煙、排気ガス、等の煤塵を除去したことを特徴とする可燃廃棄物処理方法。
【請求項３】
該加熱空間と該送風機とを管で連通することによって、前記煙、排気ガス、等を前記送風機が吸込んで排気ガスを循環させるよう構成したことを特徴とする請求項１記載の可燃廃棄物処理装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
【課題を解決するための手段】
上記の目的を達成するため、可燃廃棄物を加熱する装置と風力で送圧する送風機を備えた加熱乾燥筒と、この加熱乾燥筒は外壁を貫通して該外壁に囲まれた炉本体の一次燃焼室の内側と連通し、これにより燃焼された可燃廃棄物は該炉本体の一次燃焼室の内側に送圧され、この一次燃焼室の下部は火格子を介してニ次燃焼室に連通し、これにより加熱された可燃廃棄物はニ次燃焼室に落下してさらに燃焼され、燃焼によって発生する煙、排気ガス、等が該ニ次燃焼室の下部から排出されるよう構成され、これら排出された煙、排気ガス、等は前記外壁の内側面と前記炉本体の外側面との間隙で形成された空間を上方に流通することによって加熱空間を構成し、この加熱空間に水槽を設けて温水を生成し、前記外壁の上部に屋根と排気口を設けて構成し、この排気口の下部に集塵装置を装着したことを特徴とする可燃廃棄物処理装置を提供する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
【実施例】
以下図面により本発明の実施例について説明する、図１は本発明を実施した可燃廃棄物処理装置の本体の縦断面図に付属装置を装着した状態を示し、図２は図１のＡ－Ａ矢視部における本体の横断面図を示し、図３は図２の他の実施例を示し、図４は本実施例による可燃廃棄物処理装置によって完全燃焼して出来た灰を骨材に加工する工程を示し、図５は一次燃焼室と二次燃焼室の内側が高温になった場合に壁表面がセラミック化して行く説明図を示し、図６は可燃廃棄物を粉粒体状に加工することなく処理する装置を示す。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】
本発明は上記の実施例に限定されることなく、その精神を逸脱しない範囲で種々の設計変更が可能であって、例えば図６に示されるように、可燃廃棄物を粉粒体状に加工することなく、ホッパ２２から可燃廃棄物を投入して処理することも可能である。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】
【発明の効果】
以上説明したように本発明の可燃廃棄物処理装置によれば、一般ゴミ、古タイヤ、廃プラ、建築廃材、その他の可燃廃棄物を加熱乾燥筒内で加熱されて、炉本体の一次燃焼室の内側に風力で送圧され、この一次燃焼室の下部は火格子を介してニ次燃焼室に連通し、これにより燃焼された可燃廃棄物はニ次燃焼室に落下してさらに燃焼されるので非常に燃焼効率がよく完全燃焼が可能になり、発生した灰も骨材の材料になり、発生した高温の煙、排気ガス、等も焼却炉の下から外壁の内側を上方に流通するよう構成したので、例えばこの過熱空間に水ジャケット（水槽）を設ければ温水器として利用でき、さらに上部の排出口の下部近傍に集塵機を設けているので、ばいじんを除去し、排気熱温度を相当に下げることができ、さらに該加熱空間と該送風機とを管で連通することによって、前記煙、排気ガス、等を前記送風機が吸込んで排気ガスを循環させるよう構成して、省エネルギー、小スペースの一体型システムであって、排気熱を回収することによって外部に熱を放出しない、等大きな効果がある。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】図面の簡単な説明
【補正方法】変更
【補正の内容】
【図面の簡単な説明】
【図１】
本発明を実施した可燃廃棄物処理装置の本体の縦断面図に付属装置を装着した状態を示す。
【図２】
図１のＡ－Ａ矢視部における本体の横断面図を示す。
【図３】
図２の他の実施例を示す。
【図４】
本実施例による可燃廃棄物処理装置によって完全燃焼して出来た灰を骨材に加工する工程を示す。
【図５】
一次燃焼室と二次燃焼室の内側が高温になった場合に壁表面がセラミック化して行く説明図を示す。
【図６】
可燃廃棄物を粉粒体状に加工することなく処理する装置を示す。
【手続補正７】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図６
【補正方法】追加
【補正の内容】

【図６】

